

これはなに？

こま犬が秋田犬？

八幡神社には2対のこま犬があります。そのうちの1対が、なんと大館を代表するあの秋田犬とそっくりではないか。

このこま犬は明治43年生まれのかたたちが42歳の年祝いのときに建立したものだそうで、戌年にちなんで秋田犬に似せたものようです。また、戌年の元旦には秋田犬保存会のかたたちが愛犬と一緒に初詣をしているそうです。

「このようなこま犬は、全国の神社の中でも珍しいのでは」と八幡神社の宮司さんが話してくれました。



ふるさと大館へ

大館ふるさと会からのたより⑧

常任幹事

工藤 捷さん

ふるさとの皆様、いかがお過ごしですか。この便りが届くころの鳳凰山の周りは、きつと紅葉で燃えたつような色合いとなっていることでしょう。

ふるさとを巣立って三十五年になります。春には、馬糞混じりの雪解け道で転んだこと、夏の長木川で川遊びしたこと、そして秋には長根山にキノコ採りに行ったこと、また、冬の柄沢でのスキー等々の思い出を胸に、大館発「急行津軽」で不安と希望を持ちながら上野駅に降り立った三十五年前。「光陰矢の如し」、サラリーマン生活のホームストレッチに足を踏み入れた今日です。

ふるさと大館は、歴史的な鉾山の閉山など厳しいものもあります。一方では、大館地区多目的ドームの建設、そして待望の大館能代空港の着工と、ふるさとの皆様の不屈のたくましさを感じ、うれしく存じているところでもあります。「ふるさととは遠くに在りて思うもの……」とか申しますが、ふるさとがグッと近付いた感じがいたします。

大館と縁の深いかたがたと昨年「大館ふるさと会」をスタートさせました。本年は、その第二回総会が十一月十二日に開催され、多くのかたがたと話の花を咲かせました。

末筆ながら、初雪舞散るころともなり、ふるさと大館の皆様の一層のご健勝と大館のますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

大館の方言講座

人に関する言葉

- ◇カロク…作男、年決めの住み込みの雇人。
- ◇ダンサマ…警察官
- ◇ナカバ…冠婚葬祭などの付き合いをするもの同士、友達、集団。
- ◇メシカジギ…田植えや祝儀、不祝儀の際の家事の手伝い婦、住み込みの女中をさす場合もある。
- ◇フト・シト…人。
- ◇ガ・ング…お前。
- ◇マハナシコ…馬の世話をしたり雑用をする住み込みの男子。

『大館市史』から

- ◇白い道(瀬戸内寂聴) ◇七週間の闇(愛川晶) ◇綺羅星(藤本ひとみ)
- ◇デビューのころ(五木寛之) ◇江戸職人綺譚(佐江衆一) ◇クローディアの告白上・下(ダニエル・キイス) ◇茂吉の短歌を読む(岡井隆) ◇水墨画人百話(日野原重明) ◇ぐるっと森吉山(宮野貞壽) ほか
- ◇約束の庭(ゆうきみえ) ◇ころわんとかががが(間所ひさこ) ◇コートニー(ジョン・バーニング) ◇ドラゴンたちは今夜もうたう(プリラツキー) ◇ゆうれいパパ(しんどうぎんこ) ◇ねむりの国のまじよ子(藤真知子) ◇かっぱ(西本鶏介) ほか
- ◇11月のテーマ関連図書コーナー……………『文字賞受賞作品展』
- ◇親子読み聞かせ会……………毎月第1金曜日14時30分
- ◇中央図書館の休館日……………11月19、23、24日



一般書

激動の時代をくぐり抜け、人気を誇る横浜中華街の成立のいきさつや、持続力の謎を分析する。中華街に暮らす人々、料理、流行、文化など様々な話題で、読む人を不思議な世界へ誘う。

『横浜中華街謎解き』

平岡 正明 著
朝日新聞社



私の本棚

中央図書館新着図書

